

学力向上に効果のある取組事例

臼杵市立野津中学校

②思考力、判断力、表現力等の育成

取組の具体①

【授業形態の工夫】

○ペア・グループ活動の実践

- ・ 1時間の中で必ず1回以上近隣生徒、班、意見の似通ったグループ等、様々な形態で話し合い活動をさせている。
- ・ ペア活動の際は事前に相手を決め、全員が参加できる環境を常に意識している。(安心安全な風土の醸成)

○生徒指導の4機能の実践

- ・ 自己決定・共感的人間関係・自己存在感の場について、授業中に生徒がどの場にいるのかをその都度意識させる。
- ※特に、自尊感情の涵養が必要な生徒のために、自己存在感を与える場については意識させている。

○ICT機器の有効活用

- ・ タブレットの思考ツールや電子黒板を用いた話し合い活動を仕組んでいる。
- ・ 発表時に視覚効果を狙って資料や画像等を提示させるような取組をしている。
- ※「文房具のように使わせる」「教師が出来なくても使わせていい」「教師も遊ぶように使ってみる」を意識している。



取組の具体②

【校内研・小中一体教育における研修】

○児童・生徒が「表現力がついた状態」を定義(小中共通)

- ・ 「学習したことや生活体験をもとに、自分の考えとその理由を積極的に伝えている。」

○各教科において「豊かに表現している姿」を設定

- ・ 小学校の系統表をもとに、中学校でも昨年度定めた姿をブラッシュアップした。教科の特性を踏まえ、各教科における姿を再定義した。

(例)国語...社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に親しみ、根拠をもとに話し合いや分掌で自分の考えを伝えて、他者の意見と比較することで自分の思いや考えを確かなものにしようとしている。

- ・ ロイロノートを用いて全生徒と共有した。

○生徒とともに作る授業

- ・ 授業アンケートで各教科で表現力を育成する場が保証されていたか、生徒が表現力を身につけたと感じているかを検証した。



野津ブロック小中一体教育

「豊かな表現力」育成指標

小中共通「表現力がついた状態」

学習したことや生活体験をもとに、自分の考えとその理由を

「進んで表現している」具体的な姿【系統表】

小学校

低学年

授業や活動の中で、自分の考えと理由を伝えることが